

「言葉の力を育てる活用学習」田中博之 編著

ミネルヴァ書房 2011 年 4 月 30 日 初版

この連休中に幾つかの本を読みましたが、この本は、本校の校内研究（とりわけ言語能力向上推進事業）にピッタリ合致しています。16 日の校内研究会までには、別紙を精読し、全員が共通認識した上で、研究の方向性を定めていくと良いかと思います。

（抜粋） この「言語に関する能力」とは、わが国の学校教育の文脈においては、文部科学省の「言語力育成協力者会議」および「中央教育審議会審議まとめ」で提案された用語である。具体的には、論理的に考える力や、コミュニケーション力、そして、創造力豊かに表現する力などを意味している。

本書では、これを「言葉の力」というようにやわらかく表現しながら、6 領域別 20 項目モデルとして、これからの新しい教育課程において計画的に育てる「言葉の力」の全体像と具体的な指導メソッドを提案している。

このようにして 6 領域 20 項目の「言葉の力」を設定することにより、バランスの取れた統合的な言語力の育成を行うことができるのである。もちろん、各学年ですべての項目をカバーしなければならないということはないが、各学校で例えば「言語力育成のためのカリキュラム編成方針」等を構想するときには、小学校 6 年間で、そして中学校 3 年間でこのようなバランスのとれた教育モデルを参照して学校カリキュラムを作るようにしたい。

というような理論編に続き、豊富な実践事例が紹介されています。これらを参考にして、本校の研究を組み立てるのが一番の早道であり効果的であると思いました。

次に、理論編からすぐに参考にできそうなものを、項目だけ拾い上げてみました。

- 1 6 領域 20 項目からなる言葉の力を育てる
【「言葉の力」の 6 領域モデル】
【「言葉の力」の全体像と具体的な指導メソッド】
【すぐれた実践事例の基準】
- 2 フィンランド・メソッドの 30 項目を活用する
【典型的なフィンランド・メソッド】
【フィンランド・メソッドにおける指導方法レベルの 7 カテゴリー】
【フィンランド・メソッドとつけたい力の整理表】
- 3 活用問題を解決する
【活用問題の 10 の条件】
- 4 型を活用して個性的に表現する【子どもの学習意欲の向上に与えるポイント】
【活用学習を子どもたちにとって意欲的な学びの機会とする 6 つの工夫】
- 5 活用学習の実践の条件
【活用学習の 7 つの条件】
- 6 活用型学力の向上に必要な学級力の育成
【学級力モデル】
【「学習のしつけ」7 つのポイント】